



たかが数値、されど数値

学校教育課長 山岸一朗

十日町市の小中一貫教育の課題のひとつに不登校の解消があります。そして、すべての小中支援学校でこの課題に対して真剣に取り組んでいただいていることに深く感謝しております。

十日町市の不登校に関わる目標値を、不登校児童生徒の発生率(小学校 0.3%、中学校 2.6%)に定めているので、どうしてもその増減ばかりに目が行ってしまいがちです。この数値も大事な指標のひとつですが、その上がり下がりにはばかり拘っていることは危険だと感じています。欠席が 30 日に至らない児童生徒の中でもつらい思いをしている児童生徒はいますし、たとえ不登校児童の発生率がゼロの学校でも「発生率ゼロイコール問題がない」と言い切れないからです。

ただ、不登校に関わる数値の中でも私が意義を感じている数値があります。それは、中学校の新規不登校生徒の人数が、平成 28 年度の 31 人から平成 29 年度は 19 人に減ったことです。なぜ評価するかというと、この数値が、昨年度すべての中学校で、短いスパンで生徒からアンケートを取ったり、そのアンケート等の情報を基にしたすばやい対応をとったりするなど、多忙な中にもかかわらずそれぞれの学校が一体となった初期対応の取組みをしていただいたことの成果であると実感できるからです。

今年度は、昨年度の初期対応に加えて、未然防止の意味合いも含めて「自己有用感」という視点を入れながら、すべての教育活動に取り組んでいただくことを皆様をお願いしています。その先進的な取組で実績を上げられた静岡県袋井市立袋井中学校の高橋壮臣先生から、昨年引き続き 8 月 2 日の小中一貫教育中学校区合同教職員研修会でお話をさせていただきます。乞うご期待願います。

「平成 30 年度版『生徒指導の手引き』」を作成、全教職員に配布～

この度、十日町市教育委員会では、複雑化・多様化・重大化する生徒指導上の諸課題に適切に対応でき、「地域に信頼される学校」になってほしいという願いから、パンフレット『生徒指導の手引き』を作成いたしました。主な項立ては次の通りです。

- 1 生徒指導のめざすもの
- 2 児童生徒に自己指導能力を育成するために ～「生徒指導の三機能」の活用～
- 3 十日町市「小中一貫教育」における取組
- 4 積極的な生徒指導への取組、自己有用感を高める取組
- 5 実態に応じた問題行動等への対応
- 6 問題行動等への基本的な対応例



児童生徒の問題行動が起こってから対応するだけの消極的な生徒指導ではなく、未然防止の視点に立った「積極的な生徒指導」を展開することは、子どもにとって自己有用感が高まる「魅力ある学校づくり」につながります。しかし、学校は様々な人間が過ごす一つの社会ですから、様々な問題が起こることも当然あります。常日頃から子どもたち一人ひとりの表情や仕草、態度や行動等、「あれ、変だな」とちょっとした変化を気にかけて、まずは積極的な声掛け、相談をしたり、校内教職員で共有したりして、早め早めに対応していく早期発見・即時対応につながる組織体制づくりが極めて重要です。

この「生徒指導の手引き」には様々な展開例や対応例を盛り込みました。ぜひいろいろな場面で先生方から活用していただき、生徒指導の充実を図ることを願っています。

なお、今回の手引きは平成 30 年度版です。今後更新、バージョンアップを図っていきます。

フロに学ぶ～授業力向上研修 Part 1「小学校・算数科」に学ぶ！～

6月18日、十日町小学校を会場に筑波大附属小学校の森本隆史先生をお招きし、算数科の示範授業（4年生）と講演会を実施しました。近隣市町村を含め、75人の教職員が学びました。以下は、参加者の感想です。

「子どもが『分からない』と言える雰囲気づくりと『分からない子から動く』ことの大切さを再認識した。」

「『分からない』といえる雰囲気が子どもに安心感を与えることが分かった。子どもが話す時間を増やし、笑顔がある授業をしていきたい。」

「子どものよさを瞬時に引き出し、笑顔あふれる授業だった。子どもたちの笑顔を見たい、そのためにどんな授業を行うか、課題を提示するか、どのような言葉をかけるか、日々私自身も勉強だと思った。」

「主体的に学ぶ姿は『数学的な見方を育てる』こと『かかわりに関する資質能力を育てる』ことの2点から日々の授業を積み重ねることだと教えてもらった。一人一人の



『分からない』を引き出すことが本当の意味での『分かる』につながることを改めて考えさせられた。」

市小中一貫教育共通取組事項「自己有用感の向上」に通じる感想が多く、森本先生の示範授業が市にとって貴重な提言だったことが分かります。参加された方は、ぜひ、校内に広めていただきたいと思います。

学習指導班では、「自己有用感を高める日々の授業づくり」の視点を配信しました。授業づくりのヒントとして、活用してください。

<2018 小中一貫教育 共通取組事項>

「自己有用感」を高める日々の授業づくり

十日町市教育センター 学習指導班

「学力向上」「不登校の減少」「特別支援教育の充実」3つの課題の克服を目指します！

主体的に取り組む共同的な活動を通して、児童生徒自身が「絆」を感じ取り、紡いでいく。

視点

児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくり出す。教職員が「居場所づくり」を進める。

| | 絆づくり | 居場所づくり | 課題設定 | | |
|---|---|---|--|---|--|
| <p>校内体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎研究主任(又は管理職)が中心となり、日々の授業づくりの視点として共通理解を図る。 ◎中学校区での授業研究の協議会テーマ◎として位置付けるなど、情報交換の場を設定する。 <p>カリキュラムマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校の教育期を見直し、特別活動(学校行事、児童会・生徒会活動等)や総合の時間、道徳等と関連付けながら進める「絆づくり・居場所づくり」 ➡関連付け ●日々の授業づくりを進める「絆づくり・居場所づくり」 <p>教室環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> □ネームプレートを有効活用する。 □「○○さんが」など、固有名詞を大切に。 □ペア、グループ編制、座席配置など、配慮を要する児童生徒への支援、具体策を講じる。 | <p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> □友達のと共に共感できる。 □「相談していいですか」と言える。 <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> □誰の話でも聴き合える。 □自分の役割を理解し、その役目を果たす。 □間違いを気にせず、自分の考えを素直に言える。 □自分から「教えて」と友達に言える。 □友達の間違いを尊重し受け止める。認め合える。 □自分と違った考えを尊重し受け止める。認め合える。 □互いに苦手なことをフォローし合う。 <p>終末</p> <ul style="list-style-type: none"> □友達の考えのよさや関連性を見つける。 □友達の考えを自分事として感じる。 □友達の考え方に注目し、自分も分かる(できる)ようになったことに気付く。 □友達からの称賛を素直に言べる。 | <p>〇〇さんが……。みんなはどう思うかな?</p> <p>わたしの疑問をみんなが分かってくれてよかった。</p> <p>ぼくは、ここがよく分からない。わたしは、こう思うよ。</p> <p>〇〇さんの間違いは、みんなの役に立ったよ。</p> <p>間違えることは大事なんだな。</p> <p>そんな考えもあるんだね。〇〇さん、よく思いついたね。</p> <p>〇〇さんのような考え方もあるんだ。すごいな。</p> <p>〇〇さんのこんなふうに考えていたんだね。すごいね。</p> <p>みんなが納得してくれてよかったな。</p> <p>〇〇さんのおかげで疑問が解決したよ。</p> <p>〇〇さんの考えがみんなの役に立ったよ。ありがとう。</p> | <p>□前時の問い・問題意識を本時の課題につなげる。</p> <p>□児童生徒の発言・つぶやきを拾い、問題意識を高める。</p> <p>□ペア、グループ等の話し合いについて目的や役割を明確にする。</p> <p>□集団で学ぶ意義や価値を語る。</p> <p>□間違えることの価値を語る。間違えを集団が伸びる方向でフィードバックする。</p> <p>□「違い」があることの意義や価値を具体的にフィードバックする。</p> <p>□個々の名前が登場する場面を意図的に設定する。</p> | <p>□児童生徒の発言・つぶやきからキーワードをつなぎまとめる。</p> <p>□友達の考えを共有し、学びを実感した子どもの姿とその価値をフィードバックする。</p> <p>□次回につながる記述、発言・つぶやきなどを拾う。</p> | <p>★振り返りの視点を明確にする。具体的な姿でイメージを!</p> <p>→「今日の話し合いで〇〇さんの～という考え方が参考になりました。なぜなら、……」</p> <p>→「〇〇さんの解決方法は、……だから一番ふさわしいやり方だと思う」</p> <p>★「対話的な学び」の設定</p> <p>→具体的な内容は?…子どもにとっての必要感</p> <p>→方法は?…思考ツール、KJ法、ノート(ワークシート)</p> <p>→形態は?…ペア、グループ、学級?</p> <p>→まとめ方は?…拡散と収束、フィードバック</p> <p>★本時で「身に付けさせたい資質・能力」を明確に!</p> <p>①知識・技能</p> <p>②思考力・判断力・表現力</p> <p>③学びに向かう力・人間性等</p> <p>→本時は単元計画の中で、どこに重点を置いているのか? (要確認)</p> |
| <p>「主体的・対話的で深い学び」実現のために、「自己有用感」の向上を図り、支持的風土を醸成しましょう。互いに学び合える人間関係づくり、集団づくりが「主体的・対話的な学び」の土台になります。</p> | | | | | |

5月の学力向上推進会議の中で、各校研究主任の意見等を基に学習指導班で作成しました。「絆づくり」「居場所づくり」の視点は、日頃から配慮されている内容だと思いますし、森本先生の示範授業で学んだ点なども加えてあります。記載内容を参考に、学校として、授業者として、重点的に取り組んだり、工夫したりしながら、日々の授業づくりを進めてください。

今こそ! Enjoy Learning! Enjoy Teaching!~

- 「小・中学校の外国語教育の流れ」をつくる取組がスタート —
- ▼ 1学期に、約半数の小学校を訪問させていただき、外国語(活動)の授業を参観したり、一緒に参加をしたりする機会を得ました。今年からスタートしたこのサポート訪問は、指導にあられる先生方に直接お会いし、日々の授業づくりに工夫または難儀をしている点をお聞きし、また教育センターからは、授業に即活用できる教材の情報や指導ヒントを提供することをねらいとしています。
- ▼ 和やかな雰囲気の中で、外国語の授業を楽しんでいるたくさん子どもたちと出会う

ことができました。明るい笑顔を元気な声にのせ、学級担任・ALTの先生やクラスの仲間と外国語でコミュニケーションを行う姿に、心躍りする場面が数多くありました。そして何より学級担任の立派な姿。慣れない英語に戸惑いをみせながらも、果敢にチャレンジをし、授業をリードする先生に思わず“Good Job!”と心の中で叫んだことも多々ありました。多くの先生が「英語は苦手だから。上手に話せないの。」とやや自嘲気味にお話しされます。しかし、気づいてほしいことがあります。懸命に英語授業に取り組んでいる「私たちの先生」の頑張り、スピリット（心意気）は、十分子どもたちに届いています。それどころか、新たにもう一つの言葉を学び、相手と積極的にかかわるコミュニケーターとしてのよきモデル（手本）となっています。子どもたちは、「私たちの先生」をしっかりプラスの評価で見えています。英語教育の本格的な取り入れ時、Enjoy Teaching! Enjoy Learning! を続けましょう。



下条小学校での活動シーン

* 小学校の訪問レポートは、後日お知らせする予定です。

▼ 「消しゴム取り」ゲームで、あいにく消しゴムが見当たらず、貸してあげた私のもとに、授業後児童が返しにきました。その時の“Thank you!”の見事なこと。自然なこと。この子は確実に、相手との関わり、リアルな状況の中で、確かなコミュニケーションの力を身に付け始めています。

▼ NHK「プレキソ英語」監修の粕谷恭子先生（東京学芸大学）が創るべき英語教育の流れを次のように説明しています。「10年計画の英語教育。小学校・中学校でせせらぎが小川になり、小川から川になり、川から大河になって大海原に流れ込む英語の流れを作ります。せせらぎの始まりは木の葉に宿る小さな雨粒です。」この児童の一つの発話 Thank you も立派な雨粒になり得るだろう。そして他教科同様、「英語教育時計を持つこと」の大切さを提言されています。小学校での‘Small Talk’から「即興でやり取りする」次の学年・学校ステージへと学びの流れが続きます。英語教育時計を装備し、学習者が出会う流れがイメージできる教師は、川下り旅の頼れる「船頭さん」たちになります。

* 各中学校に小学校外国語（活動）で使用されている教材（8冊）を配付しました。

中学校の先生方からご要望いただいたものです。また、各小学校には、1月の移行措置研修会の際、中学校1年生で使用されている教科書を配付しました。こちらもご活用ください。

（市教育センター嘱託指導主事 小林 豊）

■第1回不登校対策研修会を開催 会場：川西庁舎・第1研修室～

6月13日（水）午後2時30分より、神村栄一新潟大学教職大学院教授をお招きして「不登校の未然防止と元気回復までの支援策」と題した講演をいただきました。その中で大切なポイントがいくつも示されましたので、一部紹介します。

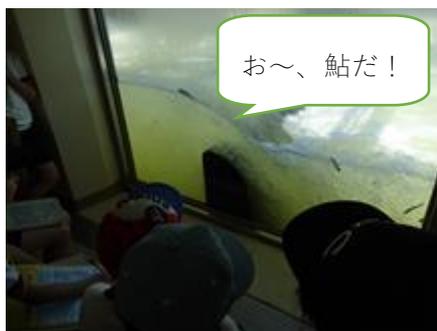
○慢性化した不登校支援の基本は「病理性と深刻さ、不登校リスクへの評価を行う」「学習スキル、学力への手当てを保障する」「行動活性化（お手伝いや外出、人とのふれあい等）を図る」「学校への漸次的接近を進める」

○慢性化や新規不登校を防ぐには、午後4時までは、学校でできないこと（SNS、ゲーム、ユーチューブ等の情報端末への接触）は、家でもできない状態にすることが大切。ひどい退屈状態を醸成することが介入効果を左右する。ルールづくりが大切。

○不登校リスクの程度を把握して対応すること。「予測力」が不登校を減らす。

ふるさと信濃川教室～「ふるさと十日町」の魅力を満喫～

今年度は学校現場の負担軽減をねらい、井ノ川囑託指導主事を講師として実施しましたが、いかがだったでしょう。また、途中、信濃川の水位がなかなか下がらずラフティング延期の学校が5校ありました。



次年度以降の実施検討材料として、事後アンケートに忌憚のないご意見をお願いします。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～8・9月～

| 日程 | 内容【会場】 | 備考 |
|--|--|--|
| 8月1日(水) | ティーチャーズ・イングリッシュキャンプ(T-TEC)【千手コミセン】 | 講師：教育センター担当、ALTほか |
| 8月2日(木) | 小中一貫教育中学校区合同教職員研修会【段十ろう】 | 講師：静岡県袋井市立袋井中学校 高橋壮臣 教諭 |
| 8月8日(水) | 事務職員研修【中条小】 | 講師：中条小学校 佐藤茂幸校長 |
| 8月20日(月) | 特別支援教育研修講座【川西庁舎】 | 講師：見附特別支援学校 稲田真砂美 教頭 |
| 8月21日(火) | 初任者ボランティア体験研修【特別養護老人ホーム三好園】 | 対象：市内初任者 |
| 8月23日(木) | 英語・外国語活動指導力養成講座【情報館】 | 講師：埼玉大学 及川 賢 教授 対象：小中学校外国語担当 |
| | 郡市教振一斉研修日 ※連携 | |
| 8月24日(金) | 特別支援教育研修講座(公開講座)【千手コミセン】 | 講師：新潟大学教職大学院 長澤正樹 教授 |
| 【以下の英語推進事業について、参観・参加も可能ですので、研修の一貫としてご検討ください】 | | |
| 8月9日(木) | イングリッシュキャンプ | 講師：ALTほか |
| 8月20日(月) | 【千手コミセン】 | 対象：9日小学5・6年生、20日中学生 |
| 8月7日(火) | 英語ボランティアガイド養成講座 【8/7・8 十日町小】 【8/21・22 松代農舞台】 | 講師：外部講師ほか 対象：市内中学生7名、市内高校生7名 募集中 |
| 8月8日(水) | | |
| 8月21日(火) | | |
| 8月22日(水) | | |

【表紙の説明】

1学期終業の日に下条小・中学校で行われた、ヒカリコーラス。平成25年度の小中の児童生徒・職員が作詞した、「ヒカリ～未来へ向かって」を全校児童生徒で合唱しました。ベランダ越しから奏でるみんなの歌声が中庭で交わり、美しく響き渡っていました。